

平成30年度第2回長南町地域公共交通活性化協議会議録

日 時：平成30年10月25日（木） 13：30～
場 所：庁舎分館2F第1会議室
出席者：野口（喜）会長、金坂副会長、成田委員、鈴木（文）委員、
平野委員、古市委員、秋山委員、大木委員、鈴木（壽）委員、
長田委員、齋藤（祥）委員、宮澤委員、荒井委員、川野委員、
石崎委員
川俣委員（代理）県交通計画課 坂本
山口委員（代理）茂原警察署交通課 重條係長

計 17名

事務局：（企画政策課）田中課長、松崎係長、風戸
欠席者：森川委員、中橋委員、野口（智）委員

計 3名

1. 開 会

松崎係長：それでは定刻でございますので、只今より平成30年度第2回長南町地域公共交通活性化協議会を始めさせていただきます。

本日は、公私とも大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

会議を開催する前に、森川委員、中橋委員、野口（智）委員の欠席を報告いたします。

また茂原警察署交通課長 山口委員の代理といたしまして、交通課係長、重條様、千葉県交通計画課川俣委員の代理といたしまして交通計画課坂本様の代理出席をご報告いたします。

また地域公共交通活性化協議会設置要綱第7条の規定により出席者が委員の過半数に達しておりますので、成立していることをご報告いたします。

早速ですが次第に基づきまして会長よりご挨拶を申し上げます。

2. 会長あいさつ

野口会長：本日は大変、お忙しいなか、出席いただきましてありがとうございます。

新聞の方に自動車運転免許証の返納が出ておりまして、9月から介護者等親族の代理人による返納が可能になり、9月は30件の返納者があったとのことでした。いずれにしても免許証を返納すると公共交通あるいは、親族等の手助けを受けながらという形になりますけども、返納後はどのようにしたら良いのかというような問題も出てきます。このようななかで自動運転というような話も出てきておりますけども、そう遠くない将来でも、でてくるのではなかろうかなと思います。いずれにしても巡回バス、そういったものを利用するなかで皆さんが公共交通の足を利用していかなければいけないということもありますので、そういった事を踏まえまして会議の方を進めてまいりたいと思います。本日の議題は、巡回バスの利用促進についてというような内容でございますので忌憚のないご意見を頂くなかで会議の方を進めてまいりたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

松崎係長：それでは、議事の方に入らせていただきます。進行につきましては、長南町地域公共交通活性化協議会設置要綱第7条第4項の規定により、会長が議長になります。

野口会長、よろしく願いします。

3. 議題

(1) 巡回バスの利用促進策について

野口会長：さっそくですが議題に入らせていただきます。

議題(1) 巡回バスの利用促進策について事務局説明をお願いします。

事務局風戸：資料No.1

参考資料：長南町巡回バス利用者実績
に基づき説明。

野口会長：事務局から説明がありました。今回は、この2つの素案について協議をいただき次回、第3回に、この内容について承認をいただきたいということでした。4、5ページにありますこの内容について皆様の忌憚のないご意見をいただければと思います。

平野委員：小湊バスですけれども、実績表とか見せていただきましたけれども収支率ですが委託料に対する収支率、これだけお金払っていてこれだけしか利用していないのと思う直感的な感想があるかもしれませんが、私ども長南営業所で経営している路線バスの収支もほぼこれに近いです。それでもうちの会社はやっているんですよ。それを理解して頂きたい。うちもバスを実際に運行していても利用客というのは、朝、晩の学生の利用客がほとんどです。その学生さんも、ほとんど減っています。あんなに大きいバスで運転手さんに一日、10,000円そこそこ払います。燃料使ってバス使って付帯する経費も相当のものです。工場でのバスの修理、そして長南町だけでなく各地区の回数券とか利用者数のデータをださないといけない。そういったことに係る人たちの経費も絡んできます。ほとんどうちは、国、県の補助金をいただいております。頂いてでもほとんど赤字です。平均収入なんてバス一台走らせても、平均収入なんて一万円もないです。ほとんどが7千円とか8千円とかの路線ばかりです。それでここから大多喜の方面にいくともっとひどいです。1日、3千円とか4千円です。それで運転手に1万円の賃金払って燃料使ってやっているんですよ。それで大多喜町からも補助を頂いておりますけれども、今の状況は、とてもよくこの数字と似ているんです。でも学生さんの足がなければいけないというので、通勤の足も身体障害者の方の足もなくなるといけないので、五井、木更津の方面で収支が良くなってきているということで、それでこちらの過疎地域の分を何とかカバーしている。コミュニティバスもどこの市町村をみても、この収支率というのは悪いです。どういう人が利用しているのかというと車が無い、足が無いって人が病院とか買い物に出なくてはいけないという人の利用なんです。私どもの方、町からこれだけの金をもらっていて運行しているんですけれども実際は本業のバスの方も、これに近いような状況で運行しているという事を理解していただければと思います。

田中課長：平野所長さん良いご意見をいただきましてありがとうございます。

長南町地域公共交通網を一昨年策定したんですけれども、この5カ年の計画のなかで巡回バスの動向も危惧の面があります。平野所長さんのおっしゃる通り、少子高齢化で長南町の人口も2040年には半分減る。現在、8050人くらい来年になると8,000人を切ってしまうというような状況で、学生さんとか通勤の方、そういう方、内房の方で儲かっている分で過疎地域を補ってもらっていると。まさしく路線バスが無くなってしまうと、JR茂原駅から遠く、陸の孤島になってしまうというのが心配される点です。我々としても免許返納の問題も冒頭、野口会長からお話がありました。高齢化による交通事故が増えております。ご家族の心配、代理申請のなかで、今からでも早く

返納して事故を減らしていかなければならないという事にも密接に結びついてきます。巡回バスは小湊さんに委託しているわけですが、そういったものも併せて既定の路線バスの方もですね何とか収支率が悪いようななかで存続していくというような状況なんですけども、委員さん方は、公共交通に対する意識レベルが高いということで我々も危機感を持ってこの公共交通を取り組んでまいりたいと思います。

坂本委員：県内の市町村で回数券を導入しているところで、コミュバスとデマンド両方使えるような回数券を発行しているところがあったかと思うんですけども、デマンド一回、500円でデマンド2回使って2枚余ったのを余っているからコミュバス乗ろうという人もいるかもしれないですし、そういった取り組みを考えているかお聞きしたい。

事務局風戸：自治体によってコミュバスとデマンドの共通の回数券を発行している自治体もあり、そのような取組という事でした。県の交通計画課さんの方で実績等を把握できるのかもしれないですけども、巡回バスについては利用者が減少しているんですけどデマンドについては、年間1万人を超える利用があるところでございます。デマンドでも賅きれない部分もありまして例えば、午前中の通院の時間帯に予約が殺到するため希望通りの時間帯に予約ができないといった部分を補完してもらうためにも巡回バスの方に利用を促進させていただければと思います。巡回バスについては、網形成計画策定する際にアンケートを実施したんですが、638人のうち免許をもっていない人が128人いまして巡回バスを主に使っている人は、通院で9人となっている所です。事務局としてデマンドの利用者数が増加しているなかで、巡回バスを利用してくれたらと考えていることです。

平野委員：デマンド利用者が1万近くあるという事でしたが、その人たちの目的の大半はなんですか。

事務局風戸：目的地については、ほとんどが長南中央医院です。

平野委員：もっと安く人を運べるデマンド交通方式が大多喜の方とかありまして勝浦、御宿でもうちの会社がやっているんですけども、タクシーが予約を受けて長南中央医院に行ってるという話ですけども蔵持地区、西地区、東地区等で時間をわけまして予約を受けたかたのところまで迎えに行くんですよ。10人ぐらいのバスで、それを東地区だったら求めている病院まで送るというシステム

があるんですよね。ですからタクシーが頭打ちになってしまいました。これ以上、予算が使えないというならデマンド交通という手段もあるんですよね。それはタクシー会社がやっても良いし、タクシー会社が出来ないからうちがやっているんですけども、タクシーだって乗合なんですけど利用者が実際は1人、2人しか乗り合っていない。あれを地区で集めて中央病院までバスがくるとか、そうすればもっと合理的です。こういう手段としてある。

事務局風戸：今、所長の方でおっしゃっていただいた件ですが、デマンド交通っていろんな形態があるんですが、長南町がやっているのが全区間自由乗降区域、ドアツードア方式です。乗合率を上げる方法として、出発時間帯が決まっている自治体もあります。9時出発、10時出発、そういう形態で運行すれば乗合率は、あげられます。長南町でやっているのは、ドアツードア方式で町内全域自由乗降区域の最上級なデマンドサービスですので、所長さんのおっしゃってる方法は、サービスをワンランク下げよう形です。事務局としては、今の方法で実施したいと思います。

鈴木(文)委員：今、利用率の話されましたけども、現実にデマンドをやっていて半分くらいはみなさん、タクシー乗るのも時間がかかる状況です。タクシーのドアを開けて足が上がらないというような状況です。逆にドアツードア形式だから利用がこれだけある状況です。これがポンポンと歩ける人ならば、バス停まで行って利用できる状況なんですけど、現状は、ほとんど皆さん足が悪くて病院に行く人も足の整形という人も多いです。そういった状況のなかで皆さん目的があって行けるのならばという事で運転手によっては、降りて足を上げてあげる、本当は健常者というのが一つの基本なんですけど、そのくらいはサービスしている状況です。

もう一点、お客さんは目的があって乗るわけです。タクシーに乗るために乗る人はいないです。バスも一緒だと思うんです。それが今の状況で、100円を0円にしたからと行って乗る人はいないと思う。ましてポイントを入れるとか、そういった事をやっても効果なく逆に安売りという感じなんです。利便性を高くする目的を余計に作るとか病院を誘致して大きな病院が出来るとか、そういう目的があれば乗ると思います。100円というレベルは、下げてもなんも効果がないような気がします。

野口会長：タクシーに乗る人も大変、というような話がありました。

バスを利用するのであれば、バス停まで行けるだろうし、目的があるから乗るという話は確かにそのとおりです。目的が無くて乗るという人はなかなかいないと思うし事務局の方で話したように全然乗ったことのないような人に乗せるきっかけづくりというのを事務局の方で作ってみたいというのを説明したと思うんですけど、どれくらい利用者が出るかというのを試してみないと分からない部分もあると思いますので、そういったなかで事務局の方で協議をするなかで進めてもらえればと思います。

野口会長：他にありますか。

野口会長：無ければ、この件については、次回、承認をいただくような内容になっておりますので持ち帰って検討頂く内容で結構でございますのでよろしくお願ひしたいと思います。

4. その他

野口会長：その他ということで事務局の方で何かありますか。

事務局風戸：高速バスの実証運行の利用者状況の報告
次回の協議会の日程 1月18日 13時30分～

野口会長：皆様の方から何かありますか。

成田委員：バス協会です。

新しい施策については、既存路線に対する影響度合いをある程度、お示しいただいた方が、道路運送法のガイドラインに協議会に一般路線にどう影響するかもお示して頂いて影響ないよという事であれば、国の処理をしないでこの協議会で決められるという事ですの次回、示していただければと思います。また路線図の方も議事をするときに手元にあれば協議をしやすいと思います。

古市委員：戻ってしまうんですが、運転免許証返納者の優遇措置、当社の小湊鐵道がやっているものは例えば、市原市在住の方が、こっちに来て無料、仮に高速バス、横浜から長南駐車場に来て熊野の清水に行きたいとなっても無料となると、そこは路線バスが走ってますので長南の営業所まで200円の運賃がもらえ

るんですよ。それが無料であれば一概に長南町限定の者というのがないので、200円の運賃がふっとんでしまうのでご検討いただければと思います。

野口会長：長南町の人だけでなく他から来た人もってことですね。
どのような影響があるのかというようなことも説明できるようにお願いします。

古市委員：回数券拡充の話で対象者が全員になりますと大人になりますと、当社のバスに町の回数券を持ってきて100円だとか200円だとか、そこでお客さんとの口論なることもあるのでそのあたりを検討いただければと思います。

事務局風戸：小湊鐵道バス部営業企画課さんの方に相談した際には、ここまで現場レベルの話がなかったのもまた検討させてください。

田中課長：今、ご指摘のあったトラブルの関係ですが、また具体的に聞き取りの調査で確認したいと思いますので、現場レベルの話は私ども分りませんので、ご協力の方よろしくをお願いします。

野口会長：他には大丈夫ですか。

野口会長：それでは次回の会議が1月18日ということでございますのでよろしく
お願いします。
以上で本日の会議は終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

松崎係長：ありがとうございました。
以上で、本日の長南町地域公共交通活性化協議会は、終了いたします。
お疲れ様でした。

閉会 14：30